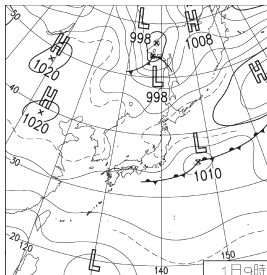


日々の天気図

— No. 69

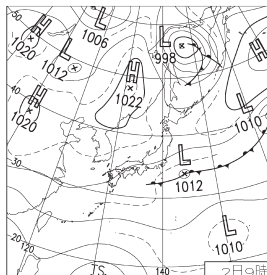
2007年10月

- ・6日、台風第15号通過、沖縄県石垣市川平438.5mm/24hの降水。与那国町で63.2m/sの瞬間風速。
- ・21日、台風第19号通過、母島230mm/24h降水。父島40.8m/s瞬間風速。
- ・27日、台風第20号通過、東京都三宅村神着427.5mm/24hの降水。八丈町西見42.5m/sの瞬間風速。(気象庁予報部予報課)



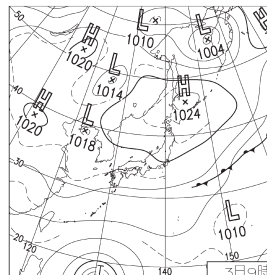
1日(月)緊急地震速報スタート

東日本は本州南岸の前線の影響で雨や曇り、その他は概ね晴れ。南西諸島は晴れて最高気温が所々で10月の極値を更新、沖縄県竹富町大原32.7℃など。神奈川県箱根町で震度5強。



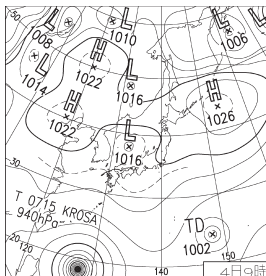
2日(火)台風第15号発生

関東甲信と静岡県は前線の影響を受けて曇りや弱い雨。その他は概ね晴れ。北海道は大気の状態が不安定となり所々で強い雨。南西諸島は引き続き真夏日。那覇市で32.8℃など。



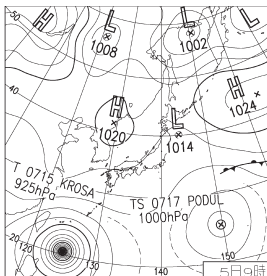
3日(水)台風第15号に眼

台風第15号は強い勢力に発達し眼を形成。日本付近は近畿～関東で曇りや雨。その他は晴れ。九州や沖縄は真夏日。一方、北海道稚内市沼川は最低気温-0.5℃。



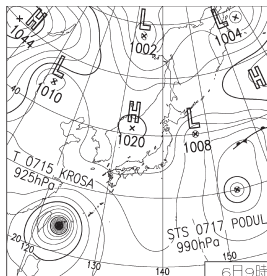
4日(木)台風第15号発達

北日本は北から高気圧が張り出し概ね晴れ。台風第15号は、フィリピンの東海上で非常に強い勢力に発達。台風第14号は中国大陸で熱帯低気圧に。銚子でサクラ開花の不時現象。



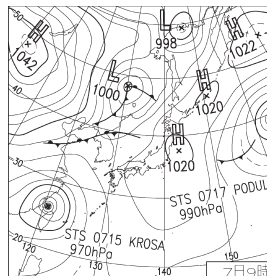
5日(金)台風第15号猛烈な強さ

日本付近は朝鮮北部に中心をもつ高気圧に覆われ概ね晴れ。台風第15号は大型で猛烈な強さに発達し、石垣島の南海上に北西進。台風第16、17号発生。



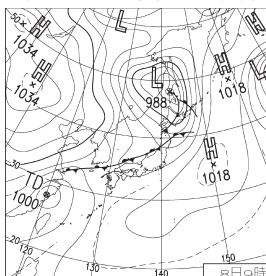
6日(土)台風第15号与那国通過

台風の影響で沖縄県石垣市川平で99.5mm/1h、438.5mm/24hの猛烈な雨。最大瞬間風速は与那国町63.2m/s。最低気圧は与那国町で929.2hPa。台風第16号は熱帯低気圧に。



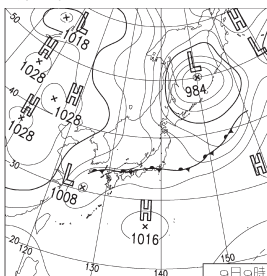
7日(日)台風第15号華中へ

南西諸島は、引き続き台風の影響で風が強く、海上は大しけとなり所々で強い雨。本州付近は高気圧に覆われ概ね晴れ。台風第17号は温帯低気圧に。



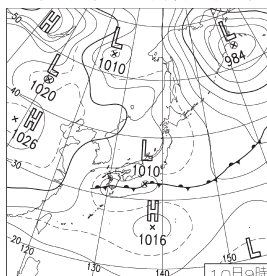
8日(月)連休最終日は雨

寒冷前線が北海道を通過、前線が本州に停滞。全国の広い範囲で雨。北海道で風が強く、釧路市で最大風速21.9m/s。朝の最低気温は北日本で平年より5~7℃高い暖かい朝。



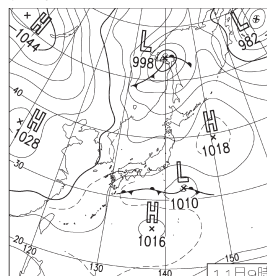
9日(火)北日本は冬型

東日本～西日本は秋雨前線の影響で曇りや雨。九州は台風第15号から変わった低気圧の影響で局地的に雷を伴った非常に激しい雨。長崎市で84.5mm/1h。



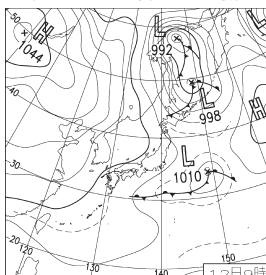
10日(水)鹿児島、沖縄で真夏日

本州の南海上に停滞する前線上を低気圧が東進。関東から西の太平洋側は曇りで、宮崎県日南市油津で50.5mm/1hの非常に激しい雨。その他は概ね晴れ。



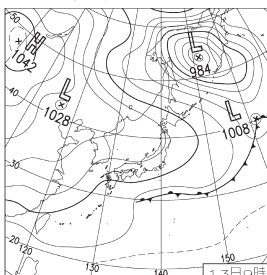
11日(木)北・東日本平年並の朝

北日本を上空の気圧の谷が通過。北海道は曇りの所が多く一部で雨。東北は曇りや晴れ。本州の太平洋側は本州南海上の前線の影響で曇り。その他は概ね晴れ。



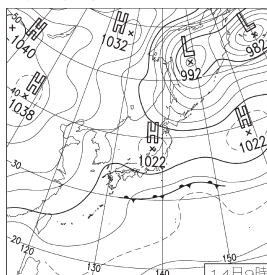
12日(金)稚内市で初雪

北海道を寒冷前線が通過し、北日本には次第に寒気が流入。稚内市では平年より9日早い初雪を観測。本州付近は大陸から高気圧が張り出し概ね晴れ。台風第18号発生。



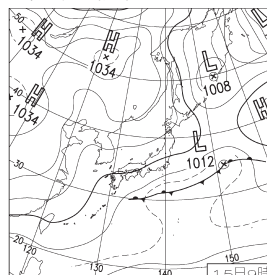
13日(土)旭川で初雪

北日本に強い寒気が流入。北海道の最高気温は平年より4~5℃低く、最低気温は北海道白糠町で11月中旬並の-3.6℃。北海道と東北から初冠雪の便り相次ぐ。



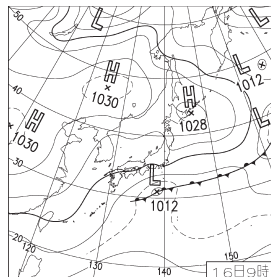
14日(日)北海道 冷え込む

北海道には寒気が流入し、最低気温は軒並み氷点下。釧路、帯広で初氷を観測。東北地方は概ね晴れたが、東日本以西は寒気や前線の影響で曇りの所が多く、一部で雨。

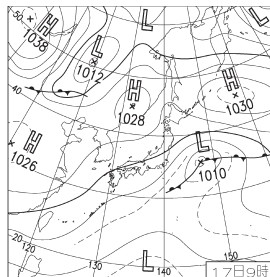


15日(月)台風第18号温低化

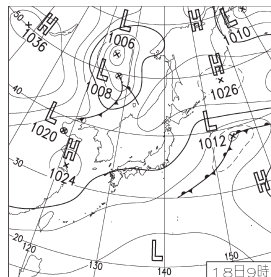
前線が本州の南海上に停滞し、高気圧が北から本州付近を覆う。東北から関東は弱い寒気の影響で一時的に曇り、その他は終日概ね晴れ。北海道と東北から初冠雪の便り。



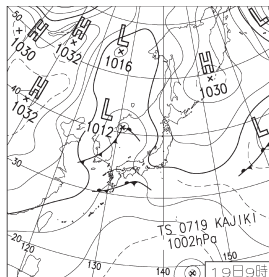
16日(火)関東南部 曇雨天
北海道は、一部で雨の他は曇りや晴れ。東北太平洋側～関東は海上からの北東の空気が流入し曇りや雨。その他は概ね晴れや曇り。北海道から初霜や初氷の便り。



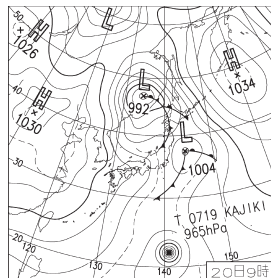
17日(水)浅間山初冠雪
上空の寒気の影響で北海道や西日本日本海側は雨や雷雨。島根県隠岐の島町西郷でひょうを観測。東北の太平洋側～関東の曇雨天も小休止、日中を中心に各地で晴れ。



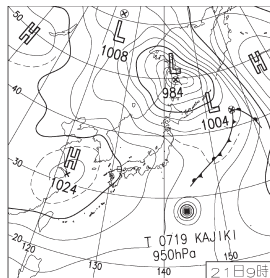
18日(木)上空の寒気通過
上空の気圧の谷が通過。北陸や山陰は未明から明け方に雨。北海道東部は曇りや雨。その他は概ね晴れ。前日群馬県側から確認された浅間山の初冠雪、長野県側からも確認。



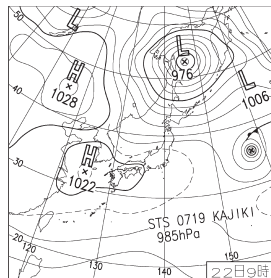
19日(金)台風第19号発生
前線を伴った低気圧が発達しながら日本海を北東進。本州南岸には前線が停滞。本州は全般に雨で、奈良県日田岳で日降水量173.5mmを観測。マリアナ諸島近海で台風第19号発生。



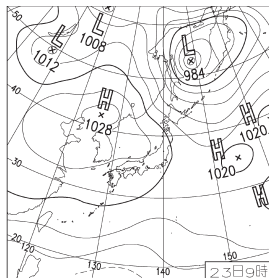
20日(土)寒気流入
前線が北日本を通過。後志支庁倶知安で最大瞬間風速35.7m/s。次第に北西風強まる。北日本と北陸は寒気の影響で曇りや雨。太平洋側は概ね晴れ。男体山と立山で初冠雪。



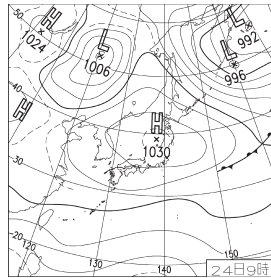
21日(日)父島 台風の影響
台風第19号が通過した東京都父島で最大瞬間風速40.8m/s。母島で65mm/1hの非常に激しい雨。発達中の低気圧の影響で北海道沿岸部で強風。西～東日本はさわやかな秋晴れ。



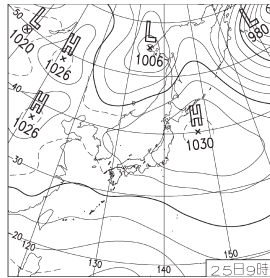
22日(月)軽井沢町で初霜
低気圧がオホーツク海で発達。北陸と北日本で曇りや雨となった所が多かった他は概ね晴れ。飯豊山、月山、蔵王山で初冠雪。長野県軽井沢町では平年より6日遅い初霜を観測。



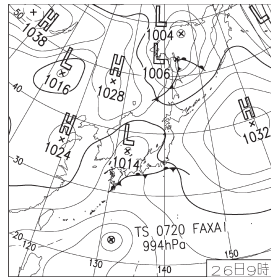
23日(火)各地 秋晴れ
日本付近は西から大陸の高気圧に覆われる。朝のうちは新潟県を中心にやや強い雨があったものの、北海道を除き全国的にさわやかな晴れ。札幌市、帯広市でイロハカエド紅葉。



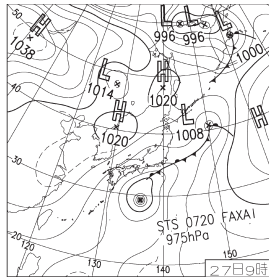
24日(水)全国的に快晴
日本付近は、移動性の高気圧に広く覆われ各地で快晴。放射冷却の影響で、朝方、盆地や川沿いの低地で霧が発生。札幌市で初氷。福島県会津若松市で初氷と初霜を観測。



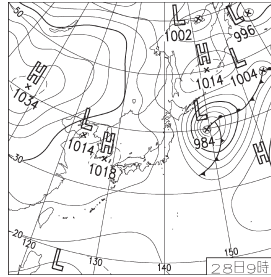
25日(木)各地 秋晴れ
日本付近は日本の東海上に中心をもつ移動性高気圧に広く覆われ、概ね晴れ。西日本の太平洋側は、高気圧からの東風が吹きつけ一部で雨。函館市で初霜を観測。



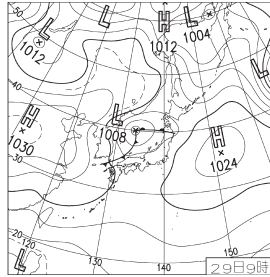
26日(金)台風第20号発生
北日本は午前中晴れ間もあったが、午後は曇りから雨。東日本～西日本は、南岸の前線や日本海の低気圧の影響で曇りや雨。南西諸島は晴れや曇り。台風第20号が日本の南を北上。



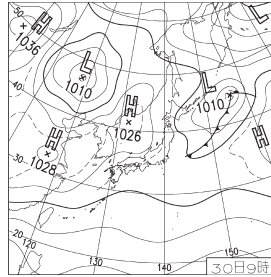
27日(土)韋駄天台風
台風第20号は速度を上げ、夕方伊豆諸島付近を通過。関東の東海上で温帯低気圧に。八丈島で最大瞬間風速42.5m/s。三宅島神着で427.5mm/24hと観測史上1位の値を更新。



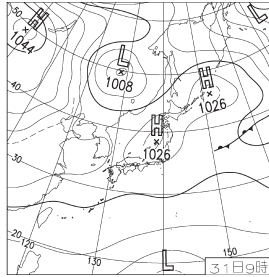
28日(日)台風一過の秋晴れ
高気圧に覆われて北海道の沿岸部を除く全国で快晴。放射冷却の影響で、朝方、盆地や川沿いの低地で霧が発生。札幌市で初氷。福島県会津若松市で初氷と初霜を観測。



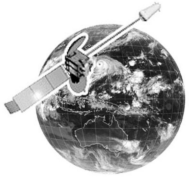
29日(月)東京で夏日
前線を伴った低気圧が日本海を発達しながら東北東進。北日本中心に曇りや雨。本州には前線に向かって暖かい南風が流入し、東京では最高気温25.6℃と夏日。



30日(火)関東中心に夜遅く雨
本州付近は日本海北部に中心をもつ高気圧に覆われる。日中は関東から西の太平洋側で概ね晴れ、その他は曇り。夜遅くには近畿～東北の広い範囲で雨。帯広でイロハカエド落葉。

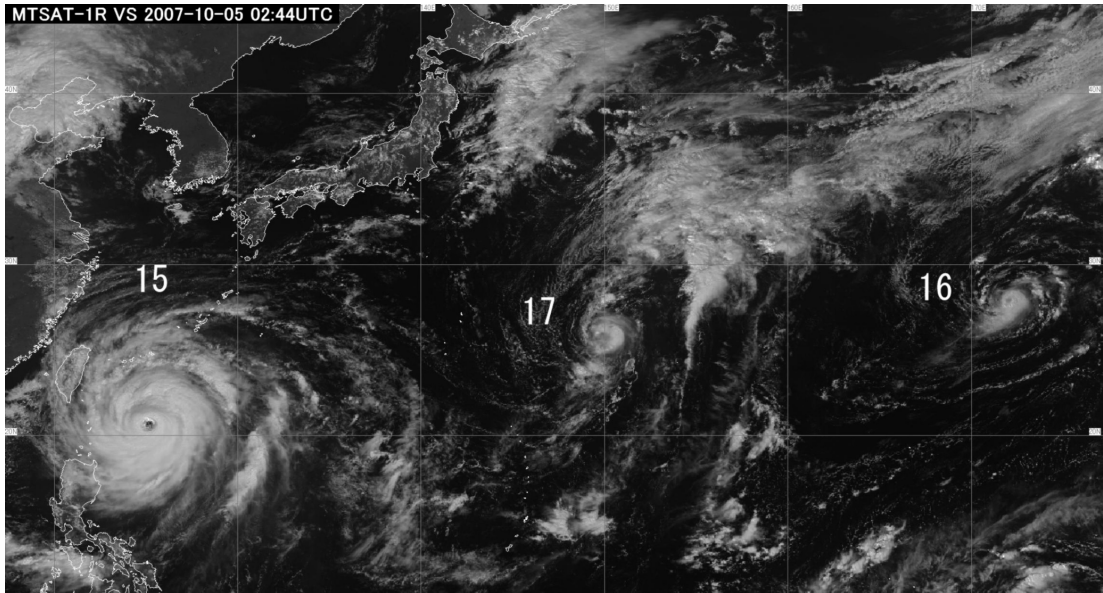


31日(水)日本列島、概ね晴れ
本州付近は広く高気圧に覆われ、日中は概ね晴れ。明け方は、海上からの北東風が吹き付けた東日本太平洋側を中心に所々で雨。北海道函館市でイチョウ黄葉。



今月のひまわり画像—2007年10月

発達する台風，しない台風



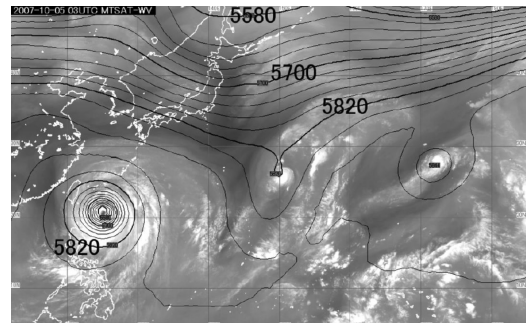
2007年10月5日12時の可視画像 数字は台風番号を示す

今年は9月まで台風の発生数が平年に比べ少ない月が続いていたが、10月には平年値（3.9個）を上回る6個（台風第15～20号）の台風が発生した。それらのうち第15号と第19号以外の4個が北緯20度より北で台風となり、台風期間が3日以下で強い台風まで発達しなかった。

上図は10月5日12時の可視画像である。南西諸島の南海上には、中心気圧925 hPaの大型で非常に強い台風第15号がある。その明瞭な眼ときれいな円形の雲域から発達した台風であることが推定できる。一方、台風第15号のはるか東海上には、台風第15号に比べて小さな雲渦の台風第17号と第16号がある。どちらもこの時刻の3時間前に台風になったばかりで、発生時の中心気圧は1000 hPaであった。その後、この2つの台風はあまり発達することなく、それぞれ温帯低気圧と熱帯低気圧に衰弱した。

発達する台風と発達しない台風の違いは何であったのか？ これら3つの台風が発生した場所の海面水温

は29～27℃で2℃程度しか差がなかった。下図は同時刻の水蒸気画像で、実線は5日09時初期値のGSMによる500 hPaの等高度線である。この画像から、台風第16号と第17号には北西側から中緯度帯の上層トラフに伴う暗域が接近しており、上中層の寒気の影響で発達が抑えられたと考えられる。これに対応するように、可視画像では2つの台風の西側に下層寒気が流入したときに発生する筋状の積雲列が見えている。



(気象庁予報部予報課 小池仁治)